月　日 名前

／100点

【小3】国語 文章問題　物語文 I

つぎの文章を読んで、後の問題に答えましょう。

日曜日の朝、ぼくは、おり紙でつるを作っていた。三十羽そろえて、入院しているおばあちゃんにわたすつもりだった。二十八羽まで、できていた。

そこへ、妹のさきがやってきた。「あたしも作る。」と言って、ぼくのつるを一羽、手に取った。「さわらないで。」ぼくが言ったときには、もうおそかった。さきの手の中で、つるの首が、ぐしゃりとつぶれていた。

「もう、あっちへ行って。」ぼくは大きな声を出した。さきは、なにも言わずに、部屋を出ていった。

ぼくは、つぶれたつるを見た。赤いおり紙のつるだった。おばあちゃんは、赤が一番すきだと言っていた。むねの中が、もやもやした。さきがわるいのに、なんだか、自分がわるいことをしたような気もした。

しばらくして、ドアがそっと開いた。さきが、白い紙を一まい持って立っていた。紙には、赤いクレヨンで、つるの絵がかいてあった。首がまがっていて、あまりつるには見えなかった。

「ごめんね。」さきは小さな声で言った。「これ、おばあちゃんにあげて。」

ぼくは、その絵を受け取った。それから、つぶれた赤いつるを、もう一度ていねいに広げて、おり直した。前より少しくしゃくしゃだったけれど、ちゃんとつるの形にもどった。

「さき、こっちに来て。いっしょに、あと二羽、作ろう。」

さきの顔が、ぱっと明るくなった。

（この問題のための書き下ろし）

問一　ぼくは、なんのためにつるを作っていましたか。「～ため」につづくように、本文から二十字までで書きぬきましょう。

問二　「むねの中が、もやもやした。」とありますが、このときのぼくの気もちにいちばん近いものを、ア～ウから一つえらびましょう。

ア　さきにおこっているだけで、自分はぜんぜんわるくないと思っている。

イ　さきにおこりながらも、自分もわるかったかもしれないと思っている。

ウ　つるがこわれたことなど、もうどうでもよくなっている。

問三　さきは、「ごめんね」の気もちを、どんなものでつたえましたか。本文から十字までで書きぬきましょう。

問四　「さきの顔が、ぱっと明るくなった。」のは、なぜですか。「～から。」につづくように、三十五字までで書きましょう。